



わが社の アジア戦略

タイで介護ショップ3店舗を運営

フレンド、在宅介護のアドバイスも

介護サービスや保険調剤薬局を展開するフレンド（栃木県小山市）が、タイで介護用品ショップを運営している。日本以上のスピードで高齢化が進むタイで、高品質な介護用品を提供するとともに、日本でのノウハウをいかしてソフト面からのサポートも強化していく。

これまでにバンコクや北部チェンマイに3店舗を開設した。1号店は2016年12月にチェンマイ国立大学老人医療センターにオープン。現地では日本のような充実した介護用品・サービスが不足しており、需要があると判断した。

2店舗目はバンコク北方パトゥムタニ県にあるタマサート大学付属病院に、3店舗目はバンコクのタイ赤十字チュラロンコン病院にそれぞれ開設。さらに、バンコクとチェンマイには事務所も設けている。

販売員のファンになる顧客も

フレンドの介護用品ショップは、日本国内を含めて、これまでの介護ショップにあるような地味なイメージではなくブティックのような洗練されたデザインとし、商品を楽しく手に取ってもらえるような陳列に工夫している。

主な取扱商品は、介護用ベッドや車いす、歩行器、健康靴、健康サンダル、食事補助具、

杖、冷感タオルなど。一番の売れ筋商品は健康靴で、脱ぎ履きしやすく歩行がしやすいため人気が高いという。タイではこうした機能性の高い靴の入手が難しいこともあり、1足3500バーツ（約1万2000円）前後と高額ながらニーズは強い。

また、販売員は商品説明や使用上の注意点などを細かく説明し、顧客に納得して購入してもらおう。タイ国内では福祉用具の細かな商品説明を行える販売店はまだまだ少ないため、販売員のファンになる顧客もいるほどという。

タイではインターネットやスマートフォンの普及率が高いことから、今後はオンラインでの販売も導入していく予定だ。

一貫した介護の支援へ

各ショップでは看板に「ZAITAKU KAIGO」を掲げ、とくに在宅介護のサポートに力を入れている。「タイでは保険制度が未発達なこともあり、高齢者の介護は大半が在宅で行われる。そのため、現地でまだまだ浸透していない『在宅介護』という言葉が浸透させながら、介護の普及を図っていきたい」（広報担当）。

各店舗には相談コーナーを設けた。日本で培ったノウハウをいかして在宅介護アドバイスを行い、用品販売を含めて一貫した介護の支援を行っていく。将来的には、高齢者やその家族、医療関係者らに向けて在宅介護に関する情報提供や提案なども行い、地域での幅広い介護システムを構築していく考えだ。（20/7/27）（M）

